

令和7年10月31日

門信徒 各位

潮見寺門信徒会 会長 平国寛己

報恩講法要ご案内

朝夕冷え込む昨今となりました。皆様方にはお変わりなくご健勝でご精進のことと存じます。

さて、下記の通り標記のご法要が勤修されます。お馴染みになりつつある藤 清道先生に、お出で頂きます。

親鸞聖人のご命日にお参りする中で、多くのご縁の中で生かされている私ということ、改めて聴かせて頂く法要です。是非、お誘いあわせの上、ご聴聞ください。

わたくしたちは、仏様とご縁を結び、仏様のお慈悲の中で安穩（安らかで穏やかな）に、おかげさまで生活させていただいています。親鸞聖人、そして多くのご恩に感謝しつつ、お寺に足をはこびましょう。

記

- 1.と き 令和7年11月29日(土)午後1時から
- 2.ご講師 藤 清道先生（東隅組 願成寺馬立出張所）
- 3.おとき ご参詣の皆様、ご仏飯ですので全員お受けください。
- 4.おつとめ 正信念仏偈作法(十二礼の節)

法要終了後、境内工事(瓦吹替・石垣補修等)が無事終了した宴を開催予定です。中々、皆さんでゆっくり語り合う機会も少なくなった昨今、是非ご参加ください。参加希望の方は、お寺までご連絡ください。参加費は1人1,000円です。

- ◇ “月のことば”・来年度カレンダー“遇法のよろこび”を配布します。
- ◇ 法要前の掃除・準備を法要当日11月29日8時より行います。お手伝い頂ける方は よろしくお願ひします。お聴聞させて頂くみんなでご法要を作りましょう。
- ◇ 年末寺掃除・仏具みがき：11月22日(土)午後2時から、役員と本年初盆を迎えられた家族、その他お手伝い下さる方で行います。ご無理のなきようご加勢ください。個々にはご通知しませんので、よろしくお願ひいたします。
- ◇ 願成閣・第二願成閣の掃除を12月21日(日)午前9時30分から行います。納骨堂加入者は、よろしく御手伝いください。

伝道

『闇も光も』

お父さん（ご主人）と喧嘩した時に、「お寺参りばかり一生懸命したって、死んだ者が帰って来るか」ってそう言われた時、私、思ってもみない事言ってしまったの。「そんな、死んだ死んだって言わないで！（中略）あの子を死んだって片付けないで！。死んだって片付けたら犬死になる。違う。あの子は私達にね、何かを教えようとしていると思うの。だから、何を教えようとしているのか、それをお寺へ聞きに行っているんだから」って。そういうような事言ったの。その事に気付かされたの。

この私のいのちにもいつも如来のいのちが通い続けている

人間は一人では生きられない存在です。一人で生きられない私が生きているということは、私は気づいていないけれども、この私を生かしてくださる大きな「いのち」の世界が、私の「いのち」の背景にあるのです。一人で生きられない私が生きているということは、この私を生かしてくださる大きな働きが、わが「いのち」の後ろで働いているのです。



そういう「いのち」の事実気づかれたのがお釈迦さまです。私たちはそのことにまったく気づいていません。人間はどう考えても一人で生きられないのです。一人で生きられない私が生きているということは、自分ではまったく気づいていないけれど、生かしてくださる働きが間違いなく働いている、ということです。

私がここにいるということは、私を生かしてくださる大きな「いのち」があるからです。そのことに私たちはまったく気づいていないのです。私たちは自分の目に見えるものだけ、自分の身に感じたものだけが存在のすべてであると思っていますが、実際は、私たちの気づいていないものがたくさんあるのです。

大きな大きな働き、大きな「いのち」の世界に支えられ、そこに樹って私たちは生きているのです。いつ、なんどき、どうなるかわからない、危なっかしいわが身を支えてくださる大きな「いのち」の世界を、わが「いのち」のよりどころとして、この身を生きていこうというのが仏教です。

いつ、何か起こっても、わが身を支えてくださる「いのち」の世界がある。その「いのち」の世界にわが身をゆだねて、おぼつかない「いのち」であっても、この「いのち」のありたけを生きていこう。そういう人生が、お釈迦さまが教えてくださった人生であり、この「いのち」と、この人生を支えてくださる大きな「いのち」の働きを、「法」と言うのです。

それをなぜ「法」と言うのか。このわが「いのち」を生かしてくださる力は、いつでも、どこでも、誰にでも働いているからです。いつでも、どこでも、誰にでも普遍的に働く力を「法」と言うのです。それは法則と言ってもいいのです。引力はすべての人に働いている法則です。